

## 追悼号刊行にあたって

著者	小方 厚彦
雑誌名	仏語仏文学
巻	8
発行年	1975-12-10
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10112/00017537">http://hdl.handle.net/10112/00017537</a>

## 追悼号刊行にあたって

三木治先生は、昭和24年関西大学仏文学科の創設以来、長年にわたって当学科の充実発展に尽瘁してこられました。本学に仏文学会を組織され、会長として終始その運営に努力されるとともに、昭和42年にはかねての懸案であった大学院修士課程の開設、さらに本年4月には博士課程の設置を実現され、わが仏文学科の内容を名実ともに高められたばかりではなく、また、文学部長、大学院文学研究科長その他の要職を歴任され、関西大学全体の隆盛のためにも多大の貢献をされました。このご功績は、まことに計り知れないものがあります。

先生のご専門はフランス中世文学で、「ロランの歌」やアーサー伝説、あるいはまたリュトプフなどに関する克明な研究を發表しておられますが、近代・現代の文学にもご造詣が深く、該博な学殖と高邁な見識をもって後進の指導に実績をあげられ、多くの研究者を育成されました。また先生は、なかなかの名文家であられ、その豊かな文才は、アルフレッド・ド・ヴィニーの「軍隊の服従と偉大」（岩波文庫）の名訳をはじめ、機知に富んだ、しかも含蓄のある随筆などにも窺うことができます。

かって仏文学科が総力をあげて「新和仏中辞典」（白水社）の編纂に取り組んだときには、先生はその中心となって若者を凌ぐ情熱で奮闘され、絶えずわれわれを激励してくださいました。この困難な共同作業が成功を収めたのも、先生の並々ならぬご熱意と行き届いたご配慮のおかげにはかなりません。

先生は文字どおり仏文学科の大黒柱として、全員の信頼を一身に集め、そのお人柄は後進のひとしく敬慕するところでありました。末長くお元気でご指導をいただけるものと期待しておりましたのに、ご定年を前にして逝去されましたことは、痛恨のきわみであります。もはや先生の温容に接することはできませんが、先生から賜わったご教訓のかずかずは、いつまでもわれわれの心のなかに生きつづけることと思います。

ここにささやかながら本号を先生のご霊前に捧げ、謹んで哀悼の意を表すしだいでありませぬ。

昭和50年12月

小方厚彦